

諫早市教育委員会議事録
令和 8 年第 8 回（7 月定例）

令和 8 年第 8 回（ 7 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 8 年 7 月 2 7 日（月）
1 6 時 0 0 分～ 1 7 時 0 0 分
- 2 場 所 諫早市役所 8 階 会議室 8－2
- 3 出席者 教育長 池田 尚
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 池 政信
学校改革推進室長 青木 信高
学校教育課長 山口 隆
生涯学習課長 松原めぐみ
- 5 議 題
議案第 1 3 号 諫早市公民館運営審議会委員の委嘱について

議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

議案第 1 3 号は人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和 8 年第 7 回（6 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告及び報告に対する質問・意見》

本当はしてきたことすべてを皆さんに報告したいところだが、大きく五つの話をする。五つ目は皆さんの希望も聞いてみたい。

まず一番目「学校に行ってきた」は、飯盛中学校で授業をしてきた。北諫早中学校は、年間フリーパスを校長先生からもらっている。小長井小学校は、義務教育学校になるのでこちらから校長先生にお願いし、授業をしてもらいたい先生を募ったら、2 人の先生が手を挙げてくれて、2 年生の学級活動と 5 年生の英語の授業に行ってきた。あと、授業はしていないが、長田小学校とグローバルな人材を育てたいという琴海中学校で、子どもたちに声かけをしてきた。

[委員]

何の授業をしたのか。

[教育長]

飯盛中学校では英語の授業をしてきた。教えるというよりも、外部指導として、英語の先生にフォローしてもらいながら、「英語って難しくないんじゃない」みたいな授業をしてきた。体験学習とかワークショップのように、考えながらとか、「みんなどう思う」といったことを投げかけていくような授業である。

[委員]

反応はどうだったか。

[教育長]

やっぱり参加型は生徒の意欲を引き出しやすいと思う。ただしカリキュラムに沿っていないので、英語の先生が他のところでフォローをされる。先生との打ち合わせは若干してから臨むが、授業をするのは先生なのでそれを補足するような形で行う。

[委員]

学校によって規模や地域性があるが、何に気をつけて行っているか。

[教育長]

一番肝心なのは私が行って邪魔しないことである。先生が自分の担当している児童あるいは生徒をどのように見ているか、先生が見ている児童生徒の実態にあわせてこういう感じで進めたいということだけは、必ず簡単に打ち合わせをする。ただ打ち合わせに時間をかけ、私が行くことによって、先生たちが忙しくなってはいけないと思う。そういうところは大事にしている。

[委員]

北諫早中学校と琴海中学校では、だいぶ規模感が違うと思うが、小規模校、大規模校ならではの良いところ悪いところはどのように感じられたか。

[教育長]

どっちも大事だなと感じた。小規模校の方が良いとか、3クラスあった方が良いとか、それは一切ない。つまりどっちも良くていい。ちなみに琴海中学校では、校長先生がぜひ生徒と話してほしいということで、休み時間に教室に入った。外部から人があまり来ないので、私にそういう触れ合いをしてほしいという校長先生の狙いを感じた。逆に北諫早中学校は、多くの先生がおり、校長先生としては先生たちの腕を上げて欲しいという思いがあり、私のいろんな手法を見せて欲しいという願いがある。大規模校だから、小規模校だからとはならない。両方見れる人にとってはそういう議論になるのかもしれない。

[委員]

先ほどグローバルな琴海中学校と言われていたが。

[学校教育課長]

琴海中学校は、「みかんのふるさとからグローバルな人材を育てよう」をテーマとしている。伊木力小学校や大草小学校を巻き込んで連携しながら、何ができるか話し合っている。幼稚園等も巻き込んで広がっていけばと思っている。

[教育長]

二つ目、自転車通学をしてきた。実際に山口課長と西諫早中学校へ行ってきた。

[学校教育課長]

その日は暑かった。生徒はヘルメットをかぶっているとはいえ暑い中、着いてすぐに授業を受けるのが大変だろうと思った。あと、教育長の自転車と私の自転車とは性能が違うので、ぐんぐん離された。多分生徒たちも新しい自転車が欲しいと言うだろうかと、ちょっと違うことを思った。あとはどうしても、話がしたいときは横並びで走りたいと思った。前後に並んで走ると声を届かせるには、ものすごく大きな声で話さないと聞こえないので横並びで走りたいと思う気持ちもわかった。だけど生徒たちはわりと1列になって走っていた。200台の自転車が一斉に来るわけではなく、7時台に行く子もいれば、8時ギリギリに間に合うように行く子もあり、うまく分散していると思った。今、子どもたちは歩道を通行することになっており、教育長と車道を走ったが、朝の交通渋滞のなかそこを走るのはかなり怖かった。歩道も段差があって歩行者を避けるときなどは走りにくいと思った。生徒はほどほどに挨拶をしてくれた。この格好で横断歩道にいと指導する人と思って「おはようございます」と返してくれた。そんなに聞いていたほどマナーが悪いとか危険だとかいう印象は受けなかった。

[教育長]

地域で立っておられる方、一人ひとりに挨拶ができたことが良かった。逆方向に西陵高校の生徒が通っており、彼らはヘルメットをかぶっていなかったが、西諫早中学校は全員かぶっていた。横断歩道は押して歩いて渡っており、きちんとルールを守っていた。

次に林田健司さんについて。

[学校改革推進室長]

新聞報道でも見られたと思うが、義務教育学校小長井学園の校歌を林田健司さんに制作していただく。お父様が小長井の新田原出身というご縁があつて、自治会長から5月末の会議で推薦していただ

き、会議でもぜひ林田健司さんにということだった。7月3日に諫早に来ていただき、校舎の建設予定地など見てもらった。

歌詞は、小長井小、中学校の児童生徒に歌詞に入れたいフレーズや言葉の募集をかけて、子どもたちの言葉を反映させたり、繋ぎ合わせたり、林田さんの言葉を入れていただいて作っていただく。

[委員]

いつまでに出来上がるのか。

[学校改革推進室長]

今年度中にとお願いしている。

[委員]

子どもたちの言葉は集まったのか。

[学校改革推進室長]

夏休み前に集まったものを渡している。

[委員]

校歌の著作権はどうなるのか。

[学校改革推進室長]

著作権については、制作していただいた後、問題ないようにとお尋ねしたところ、校歌についても JASRAC という音楽の著作権協会に届け出が必要であるということなので行う予定にしている。

[教育長]

次に、政策調整会議があった。これは市長と今後の政策について予算を含めどのように考えていくのかという会議である。教育委員会から7つの事業を提出したが、実現するのに一番お金がかかりそうな例として、小・中学校コンピュータ活用事業がある。

[学校教育課長]

以前にもお知らせしたが、校務で使うパソコンは閉じられた空間でしか使えないのでインターネットを使おうとすると別のパソコンを持たないといけない。インターネットにつなげるパソコンが各学校に今2、3台しかなく、順番待ちの状態である。先生方は、情報収集をネットで行い教材化しており、それができにくい状態である。校務で使うパソコンとインターネットにつなぐパソコンを1台でできるようにするには、ゼロトラスト、つまり2要素認証、指紋認証などにして、ログイン自体も厳しく制限することで可能となるため、そのような環境を構築したい。それを整備するのに多額の予算がかかる。

[教育長]

インターネット回線については、市によっていろんなやり方をしており、良い方法がないか今探っているような状況である。

二つ目に、にじいろバトン事業とこども福祉部との共同研修は、予算が0円であり、若い先生たちの勉強会をこどもの城でやっていたことをこれからも続ける事業である。こども福祉部との連携は、実際、職員がお互いのことを知らないので、30分間だけ教育長室を使って少ない人数で、その日そのときに来られる人で、ちょっとした勉強会をすることを始めた。

議 事

《非公開議事》

議案第13号 諫早市公民館運営審議会委員の委嘱について

生涯学習課長 説明

削除

原案どおり可決

その他

教育総務課長

8月の定例教育委員会の日程について

17時00分閉会